

中間報告書



@YPU.KODOMO_SHOKUDO

目的

- 1.子どもたちの居場所づくり
- 2.子ども食堂に子ども達と作成した物品の売上金を寄付することで子ども食堂を支援
- 3.大学生の子ども食堂、フードバンクについての認知度を上げ興味を持ってもらう

全体のスケジュール

- 6月 山口県子ども食堂会議に参加
- 7月 学内でフードバンクポストを設置する
子ども食堂・フードバンクについての認知度アンケートを行う。
- 8月 子ども食堂の会場をおさえる
- 9月 宮野小学校、大殿小学校に子ども食堂開催のチラシを配る。SNSでも告知をする。
- 10月 子ども食堂の開催
【今後の予定】
- 11月 学祭で子ども達と作った物品を販売する
売上金を山口県子ども食堂支援センターに寄付する。

1. 子ども食堂の実施報告

実施日・実施場所：10月12日（日）10:00～15:00、宮野地域交流センター

対象：小学生20名（実際に参加したのは18名）

実施内容①ものづくり



毛糸たわし、ブックカバー、しおり作りを行った。子ども達は自分の作りたいものを思い思いに作成し、大学生に作り方を聞きながら楽しそうに作成していた。

実施内容②食事

かぼちゃカレー、きんぴら、ブロッコリーとひじきのごまドレあえ、甘辛おさつを、大学生と子ども達が一緒に食卓を囲みながら食べた。食事中は、子ども達と会話を楽しむなど、和やかな雰囲気の中で交流することができた。

参加した小学生の声

- ・おもしろかったからまたいきたい！
- ・今日ちょっときんちょうしたけど、でもたのしかったです
- ・いろいろなものをつくったからたのしかったです。
またいろんなものをつくりたいです。
- ・つぎはハンバーグがたべたい
- ・レジンがしたい

今後の改善点

- ・大学生ボランティア全員に作り方の共有ができておらず、一部の人しか作り方を知らなかった。
- ・他学校との関わりが少ないように感じたため、知らない人とも仲良くなれるようなレクリエーションを前半に入れるなどの工夫が必要だと感じた。
- ・料理提供から「いただきます」までの時間が長くなり、料理が冷めてしまった。原因として、調理室から食卓までの距離があり、運搬に時間がかかったことが考えられる。また、低学年の子どもが多く、食べきれずに残してしまう様子も見られた。今後は、給食時と同様に鍋ごと食卓まで運び、子どもが自分が食べれるだけよそうなど、提供方法を工夫する必要があると感じた。
- ・たまごアレルギーのある子どもがいることに直前で気づいた。今回は本人が自己申告してくれたため問題は起きなかったが、対応が遅れば重大な事故につながる可能性もあった。チラシには「アレルギー対応はしていない」と明記していたものの、事前にメール等で保護者への再確認を行い、当日も子どもたちに直接確認するなど、より慎重な対応が必要だと感じた。



2. フードバンクポストの設置

Instagram等で食材寄付のお願いをし、7月～食堂の入り口付近にフードバンクを設置した。しかし、食材はあまり集まらなかった。そこで、チラシを作成したりInstagramのストーリーでフードバンクの役割について知ってもらおうと企画中である。